



サワラ (日本海・東シナ海系群)

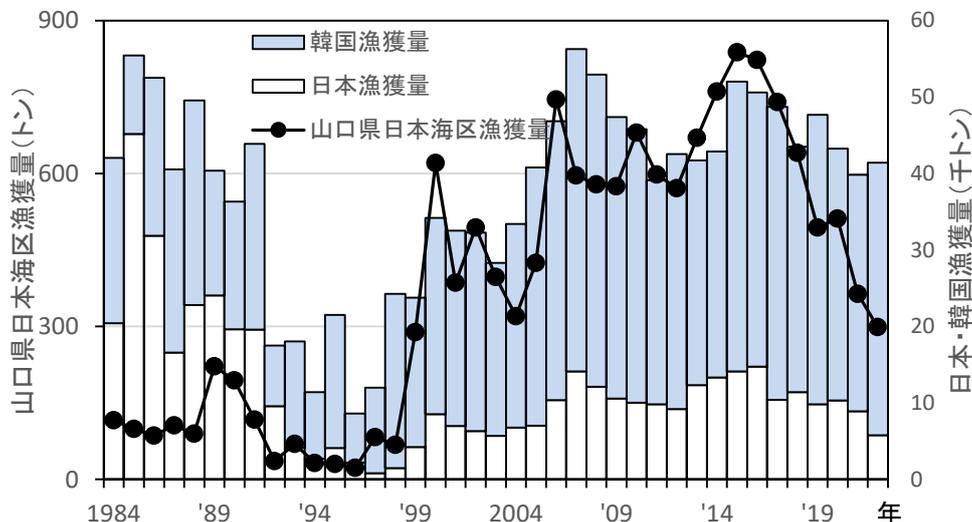


図 山口県日本海区サワラ漁獲量 (漁業・養殖業生産統計年報) 及び東シナ海系群サワラ漁獲量 (日本+韓国) ((国研) 水産研究・教育機構 資源評価報告書)の推移

【漁業】サワラは主に定置網と曳縄釣りで漁獲され、秋から冬には主に小型のサゴシ (当歳魚)、冬から春には中・大型のサワラ (1歳魚以上) が漁獲される。

【漁獲量】山口県日本海区の漁獲量は、1997年以降増加傾向に転じ、2006～2014年には571～761トンと高水準で推移した。しかし、2015年に838トンと過去最高を記録して以降は減少し、2022年は299トンとなった。

本系群の漁獲量は、1980年代は1.7～4.5万トンで推移したが、1990年代に急激に減少し、1997年には822トンまで落ち込んだ。しかし、その後は増加傾向に転じ、2005年以降は1万トン前後で推移している。2022年の漁獲量は5,779トンであった。

【資源状態】大中型まき網および大型定置網の標準化 CPUE を相乗平均した資源量指標値は、1990年代から2000年代後半まで上昇し、その後は横ばい傾向にある。2022年の資源状態は66.5%の資源量水準であると評価された。

	2022年資源水準	目標水準案	限界水準案
資源量水準	66.5%	80.0%	56.0%
漁獲量を増減させる係数	0.89	1.00	0.94
資源量指標値	1.09	1.26	0.97

* 暫定値